

2024年2月22日所長会見 所感

- 本日私からは2点お話をさせていただきます。
- 初めに、1月末頃から実施している一連の緊急時の訓練についてです。
お手元にお配りした「シーケンス訓練の結果」をご覧ください。
- 1月30日から2月1日にかけて行ったシーケンス訓練では、全ての現場対応について、想定時間内に現場対応が行えることを確認しました。
- 私が現場で確認した限りでは、自分達の安全にも留意しながら、的確な対応が行えており、確実に緊急時の対応能力は向上していると感じております。
- 2ページ目をご覧ください。2月6日に行った大規模損壊訓練では、7号機原子炉建屋に航空機が衝突し、全交流電源が喪失。大規模な火災が発生するとともに、がれきが散乱するとのシナリオのもと、対応者には事前に伝えずに訓練を行いました。
- 緊急時対策所ではそのような状況下でも、対応方針について的確に判断ができており、現場でも、がれき撤去作業や消火活動について、日ごろの訓練の成果が出ていると感じました。
- これらの訓練については、実施報告書を取りまとめ、2月14日に原子力規制庁へ提出しました。
- また、2月16日の緊急時演習では、私も本部長として発電所の指揮を執りました。

- 電源や注水機能がなくなっていく中、原子炉を冷却するための手段を、2の矢、3の矢で複数検討することができており、発電所では的確な判断や指示ができていたと感じております。
- 一方で、訓練後に、状況が刻々と変わる中で、戦術の変更や対応完了見込みの時間が、発電所から本社側へタイムリーに伝わらないとの指摘が社長からありました。
- こうした課題について、しっかりと改善がなされていけば、発電所の目指す姿の一つである、緊急時の対応能力については、満足するレベルに達すると考えております。
- この訓練は原子力規制庁にも評価をいただくものであり、今後、本社と発電所との連携、本社から原子力規制庁への情報連絡なども含めて、実施報告書を取りまとめ、原子力規制庁へ提出する予定です。
- 福島第一原子力発電所の事故を経験した事業者として、これからも現状に満足することなく、安全を最優先に、地域の皆さまからご安心いただける発電所を目指してまいります。
- 次に、「県民の皆さまへの説明会」についてです。
お手元の資料をご覧ください。
- 1月に柏崎市・刈羽村にて行った説明会に続き、4月上旬に新潟市、上越市、長岡市、見附市において、説明会を実施いたします。
- 基本的には柏崎市・刈羽村で行った説明会と同じ内容で実施する予定ですが、これまでにいただいたご意見なども踏まえて検討してまいります。

- その他の地域においても、説明会に限らず、個別訪問やコミュニケーションブースなどを通じて、県民の皆さまに発電所の状況をお伝えするとともに、皆さまの声を拝聴し、その声を発電所運営に活かしてまいります。

- 本日、私からは以上です。